

「2012 IUPAP Magnetism Award and Néel Medal」受賞

原子力機構の前川禎通 先端基礎研究センター長と東京大学の十倉好紀教授(兼理化学研究所グループディレクター) は平成 24 年 7 月 9 日(月)、大韓民国の釜山で開催された “The 19th International Conference on Magnetism (ICM 2012)” (7 月 8 日～13 日) において「2012 IUPAP Magnetism Award and Néel Medal」を受賞しました。

この賞は、IUPAP*が磁気物理学の分野で顕著な貢献をした科学者に 3 年に一度贈呈する、同分野では国際的に最も権威ある賞です。授与式では、近代磁気物理学の創始者のひとりである Louis Néel 博士を記念したネールメダルと賞状が贈呈されました。

今回の受賞は『磁気伝導現象に関する先導的研究とスピントロニクス基礎理論の構築』に関する研究が評価されたものです。

(*IUPAP : 国際純粋・応用物理学連合)



○授与式でのスピーチ



○ネールメダル及び賞状